

自然共生園とは

東北地方のきびしい自然と人とのかかわり合いによって育まれた文化や里の自然を体験し、楽しみながら学ぶことができる施設です。再生された里の田園風景、居久根、草原、湿地、牧野など、みちのくらしい動植物が豊かな里の自然を、散策しながら楽しめます。

■見どころ紹介

～里地の自然～

耕作地・水田・居久根

畑では、ソバや麦、青菜や蕪、豆類など東北地方の食文化にちなんだ作物を栽培しています。春は青麦が風にそよぎ、夏はソバの白い花が一面を覆い、秋は柿や栗が実ります。懐かしさとぬくもりのある、みちのくらしい里地の風景が楽しめます。

「居久根」とは屋敷林のことで、季節風を防ぎ、落葉や焚付けを採るための暮らしに欠かせない林でした。居久根に植えられた、田打ち桜とよばれるコブシが咲くころになると、その年の農作業が始まります。

～草原の自然～

展望野草園・サクラソウ園・放牧区

草が飼料や肥料として必需品であった時代には、里地に草原が維持されていました。草が利用されなくなると草原もなくなり、今では草原特有の動植物が絶滅に瀕しています。ここでは、かつて人の手で維持されていた草原（半自然草原）の再生を目指し、オキナグサ、サクラソウ、カワラナデシコ、キキョウなど、50種類ほどの野草を、この地域のタネから育てて増やしています。

放牧区ではヤギやヒツジを放牧し、ふれあい体験ができます。初夏に刈る羊毛は手仕事体験に利用しています。かつて草刈の時に使用した草泊りを復元してあります。

～水辺の自然～

湿生花園・ヨシ原・スゲ原・ヤナギ湿地林・小川

湿生花園では再生した湿地で、野草をタネから育てています。初夏から秋にかけて、カキツバタ、チダケサシ、クサレダマ、ヌマトラノオ、ミソハギ、コバギボウシ、サワギキョウ、オオニガナ等が咲きます。ヘイケホタルも生息するようになりました。

ヨシ原やスゲ原、ヤナギ湿地林は、かつての水田の跡地です。初夏のヨシ原ではオオヨシキリが子育てを行います。園内を流れる小川ではアブラハヤやスナヤツメ等の魚類、カワトンボ等の水生動物が生息しています。

～樹林の自然～

コナラ林・崖線樹林・ヤナギ林

コナラ林や崖線樹林では、下刈を行って明るい雑木林を再生し、樹林特有の野草を育成しています。春にはルリソウ、クリンソウ、初夏にはニッコウキスゲ、夏にはソバナ、秋にはキバナアキギリ等、四季折々の野草が咲きます。野草の豊かな雑木林の散策が楽しめます。



..... : 秋の花の道草おすすめコース (2,000m)

..... : 山羊ふれあい体験場所へのコース (230m)



～展望野草園からの蔵王の眺め～

快晴の日には、展望野草園の頂きから屏風岳、熊野岳など蔵王の山々の眺めが楽しめます。

また、東側には、北川を挟んでコナラの雑木林で覆われた里山地区や、こんもりとした釜山が望めます。里山地区へは、ドックランの傍の橋を渡って、歩いて行くことができます。



～体験施設～

自然共生情報館

自然共生園の受付です。園内の見所や草花を、展示や映像などで紹介しています。草を素材としたクラフト等の体験ができるほか、イベント情報、野の花情報、生き物情報なども発信しています。随時、自然再生や農園活動、手仕事活動のボランティアさんを募集しています。

知恵体験舎

板の間や縁側で、のんびりと休憩できます。体験イベントでは、農作業体験や、ここで採れた作物を使った食品加工体験など、みちのくの自然との共生が育んだ暮らしの知恵が学べます。

●お問い合わせ先：みちのく公園管理センター
TEL 0224-84-5991 (担当田代、葉坂)
〒989-1505

宮城県柴田郡川崎町大字小野字二本松53-9

<http://www.michinoku-park.info/wp/>

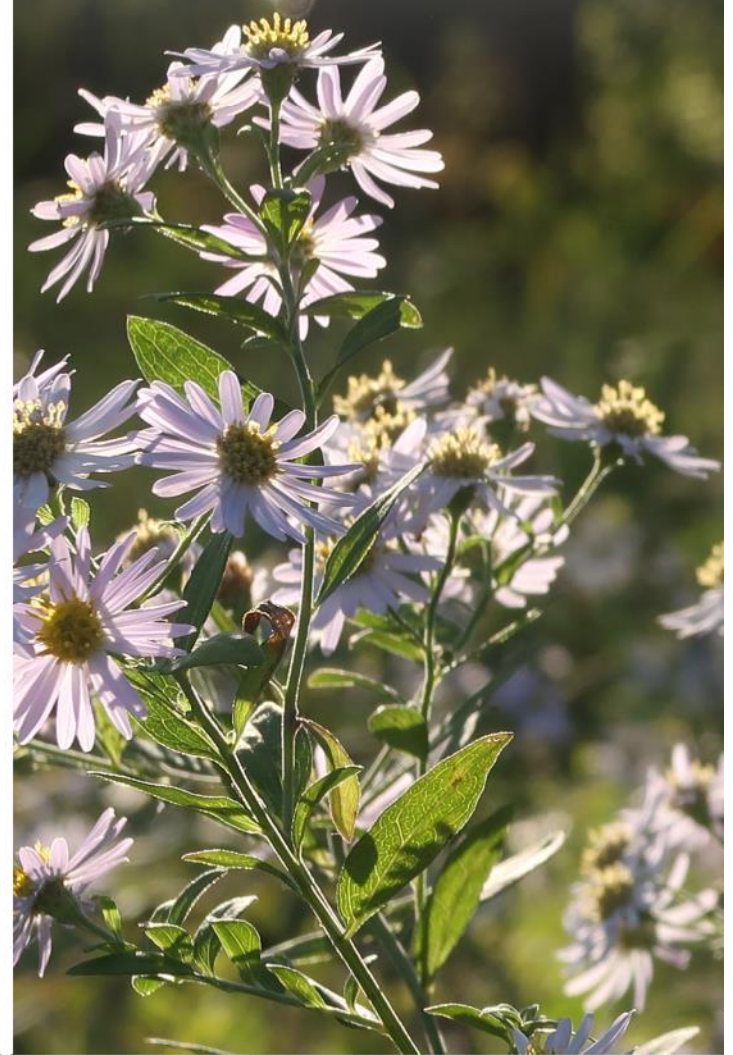




てくてくマップ

自然共生園

10月



今日はここを観てみよう！

■草原に咲く花

ワレモコウ (位置D・E)

草地に生えるバラ科の多年草です。小さな花が集まって、卵型の花穂をつくります。花弁のように見えるのはガクで長持ちするため、長い期間咲いているように見えます。



ノコンギク (位置D・Eほか)

里地の草土手などで、最も普通に見られる野菊です。よく似たコウガギクとは、葉がざらつくことや、タネに冠毛があることで見分けられます。



アワコガネギク (位置D・Eほか)

林縁などに生える野菊です。黄金色の小さな花が泡のように密集することが名の由来です。外国産の同種が法面緑化に用いられ、交雑による遺伝子の攪乱が懸念されます。



今日はここを観てみよう！

■草原に咲く花

メガルカヤ (位置Eほか)

「カルカヤ」は屋根葺きにつかた茅の総称です。実が地面に落ちると、実に生えた芒(のぎ)の乾燥によってドリルのように回転しはじめ、地面に潜ります。



ノハラアザミ (位置D・Eほか)

草原に生える秋咲きのアザミです。よく似たノアザミは6月頃に咲きます。草原のアザミらしく、花期も根元に葉があります。花は上向きに咲きます。



リンドウ (位置D・Eほか)

明るい雑木林や草原に生える多年草です。今年は長雨で花付がよくありません。花屋さんのリンドウは、別種のエゾリンドウを改良したもので、茎にも花を多くつけます。



今日はここを観てみよう！

■雑木林の花

シロヨメナ (位置H)

ヨメナが明るい草原に生えるのに対し、シロヨメナは樹林に生える野菊です。類似種のノコンギクも草原に生えます。



オヤマボクチ (位置G)

明るい樹林や伐採跡地などに生えます。葉の繊維が火起こし(ほくち)に使われました。また、葉の繊維を餅や蕎麦のつなぎに利用します。



サワアザミ (位置I)

日本海側の樹林の谷間に生えます。大きな葉と下向きに咲く花が特徴です。山菜として利用されるアザミの代表種で、新芽や若い葉の葉脈を塩蔵にすると絶品です。



今日はここを観てみよう！

■湿地に咲く花

オオニガナ (位置B)

自然の豊かな里地の湿地等に生えるキク科の多年草です。宮城県準絶滅危惧種です。「苦菜」の名がありますが、ニガナ属ではありません。花言葉は「私を食べないで」?



マツカサスキ (位置B)

湿地に生えるカヤツリグサ科の多年草です。茶色の果穂を松毬に見立てて、この名がつけられました。



イヌセンブリ (位置B・C)

センブリは乾いた場所に生えますが、本種は湿地に生えます。また、センブリより苦みが弱く、生薬には使いませんが、絶滅危惧種です。年によって開花数は大きく異なり、残念ながら今年は少なさそうです。



今日はここを観てみよう！

■色づく実

ハシバミ (位置A・Fほか)

やや湿った場所に生えるカバノキ科の低木です。ヘーゼルナッツ(西洋ハシバミ)と同じ仲間ですが食用になりますが、日本のものは実が小さいので、あまり利用されません。



マムシグサ (位置G・Hほか)

こんにやくの仲間です。茎が蛇の模様に似ているので、この名があります。株が小型の時は雄株で実はずきませんが、大きくなると、雌株になって、赤い実を付けます。毒草で食べると口が激痛に見舞われます。



ガマズミ (位置Jほか)

全国の明るい樹林に生える低木です。酸っぱい実は、ビタミンCやポリフェノールを豊富に含み、果実酒や染料に利用されます。

